



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2003 (Vol.4, No.2)

「日本アセアン対話」開催さる 「日本とアセアン：アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」

アセアン戦略国際問題研究所連合 (ASEAN ISIS) との共催による第2回日本アセアン対話「日本とアセアン：アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」が、「日本ASEAN交流年2003」のキックオフ事業として、1月16-17日に東京で開催された。

1月16日夜の大河原良雄グローバル・フォーラム (GF) 代表世話人主催開幕夕食会に続き、17日は本会議Ⅰ、講演昼食会、本会議Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、閉幕夕食会と丸1日にわたり、計127名が参加して、活発な議論が交わされた。

日本アセアン経済連携強化

本会議Ⅰ「日本アセアン経済連携強化」では、まず木村福成慶応大学教授から「日中韓のFTA締結への動きは調整されたものではないが、それが究極的には東アジア全体の統合を目指すことについては、全関係国の共通認識がある」との基調報告がなされた。

これに対しては、「東アジアの経済連携は、民間中心の動きで、政策が追いついていない」(カオ・キム・ホン・カンボディア平和協力研究所所長)、「日本アセアン経済連携強化は、最終的に東アジア地域平和共同体を目指すべきだ」(ノルディン・ソピー・マレーシア戦略国際問題研究所会長)、「日本



本会議での活発な議論のよう

の農業政策形成の重心は、農協等から消費者に移りつつある」(林芳正参議院議員)等のコメントがなされた。

アセアン中国自由貿易協定交渉

本会議Ⅱ「アセアン中国自由貿易協定交渉と日本アセアン経済連携強化」では、まず矢野哲朗外務副大臣から「中国の経済成長は脅威ではなく、発展のための好機と捉えることが重要」との来賓講演が、またハंक・リム・シンガポール国際問題研究所研究部長から「アセアンは、日中の関係を調整する『ハブ』として、東アジアに繁栄をもたらす」との基調報告がなされた。

これに対しては、「EUなどの他の地域との競争に勝つことが課題だ」(エディ・プラスティヨノ・インドネシア戦略国際問題研究所国際関係部長)、「アセアンと日本は、まず個別のFTAを作り、それから経済連携強化に進むのが現実的」(ジャヤシリ・アセアン中国貿易交渉委員会メンバー)等のコメントがなされた。

グローバル化とアジアの価値観

本会議Ⅲ「グローバル化とアジアの価値観」では、まずクスマ・スニットウォン・タイ安全保障国際問題研究所評議会議長から「グローバル化の中で文化変容は不可避だが、新旧の文化は生産的相乗効果をもたらすことが期待される」との基調報告がなされた。

これに対しては、「アジア的価値といっても多数あり、二分法の議論は無意味」(タン・イー・クーン・アセアン事務局対外経済関係局次長)、「西洋的価値も多様である。価値やアイデン



講演する矢野哲朗外務副大臣 (中央)

ティティイーは、その多元性が重要」(ハンス・フォン・ヒンケル国連大学学長)等のコメントがなされた。

最後の本会議Ⅳ「全対話を総括する」では、議長のアデンティティイーと共同体意識が芽生え始めている」との講演がなされた。夜には、伊藤憲一GF世話人事務局長主催の閉幕夕食会が開かれ、出席した日アセアン双方の関係者は夜遅くまで友好を暖めた。なお、この対話の速記録は「報告書」(和英各1000部)にまとめられ、内外各方面に配布されたほか、ホームページ(<http://www.gfj.jp>)にもその全文が掲載されている。

また、講演昼食会では、リン・カン・タン・ヴェトナム外務省国際関係研究所所長から「東アジアには、共通のアイデンティティイーと共同体意識が芽生え始めている」との講演がなされた。夜には、伊藤憲一GF世話人事務局長主催の閉幕夕食会が開かれ、出席した日アセアン双方の関係者は夜遅くまで友好を暖めた。なお、この対話の速記録は「報告書」(和英各1000部)にまとめられ、内外各方面に配布されたほか、ホームページ(<http://www.gfj.jp>)にもその全文が掲載されている。



講演昼食会で講演するリン所長 (中央)

世話人会開催

さる1月29日、大河原良雄、豊田章一郎、茂木友三郎、鳩山由紀夫、浜田卓二郎、島田晴雄、伊藤憲一の7世話人が出席して、第13回世話人会が東京全日空ホテルで開催された。

当日は、①2002年度活動実績(アセアン、中国、豪州、韓国と対話)、②2003年度活動計画案(1月アセアン、4月米国、10月台湾と対話予定)、③2002年度決算案(黒字額1,416,122円)、④2003年度予算案(総額104,485,350円)を審議、承認した後、有識者、政界人

「日米対話」開催準備進む

4月15-16日開催予定の第4回「日米対話」の準備が順調に進捗している。2月14日には、共催団体の米マンスフィールド太平洋問題研究所のゴードン・フレック所長が来日し、伊藤憲一世話人事務局長と打合せを行った。

また、2月28日には、本対話の企画段階からご指導を頂いている米倉誠一郎一橋大学教授、鈴木寛参議院議員、竹内和正旭硝子経営企画室主幹をお迎えして、「経済だけでなく、環境等の公共的側面についても、アントレプレナーシップが重要」などと、対話に臨む日本側の基本姿勢を確認しあった。

■経済人メンバー代表者交替
(12-2月分)
[新経済人メンバー]
矢口 敏和 ビル代行代表取締役社長

■新規入会メンバーの紹介
(12-2月分)
[政界人メンバー]
鈴木 寛 参議院議員
[有識者メンバー]
大宅 映子 評論家
近藤 鉄雄 新時代戦略研究所代表取締役
神保 謙 日本国際フォーラム主任研究員
田島 高志 アジア生産性機構事務総長
永野 茂門 日本戦略研究フォーラム理事長
長谷川和年 日・豪・ニュージーランド協会会長
米倉誠一郎 一橋大学教授
劉 傑 早稲田大学教授

メンバーの一部について参加意識の形骸化を憂慮する声があり、今後の「対話」への積極的参加をお願いしてゆくための方策が慎重に審議された。



活動計画案、予算案等を審議する第13回世話人会の模様

第3回「日台対話」開催決定

中華欧亜教育基金会と当フォーラムが共催予定の第3回「日台対話」の開催日とテーマが、この程確定した。開催日は10月23-24日、テーマは「アジア太平洋地域の新情勢と日台協力」。

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の15社23口です。ここに特記して謝意を表します。

- [経済人世話人所属企業] [5口]
トヨタ自動車 キッコーマン
[経済人メンバー所属企業] [10口]
住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵
東京電力 三井住友銀行 富士通
旭硝子 東京三菱銀行 日本電信電話
富士ゼロックス ビル代行
日本原子力発電 松下電器産業
(入会日付順)

事務局便り

今年は1月16-17日に「日本アセアン対話」(1頁)があり、事務局は正月気分ゼロでした。退所は毎晩深夜となり、見かねた事務局長の判断で、朝が「フレックス出勤」となりました。これで効率もアップしたようです。

補佐人会開催

昨年12月24日に第9回補佐人会が開催された。当日は、豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された笠間正治トヨタ自動車企画室長、清水和生キッコーマン社長室参事の両補佐人によって当フォーラム2002年度収支決算案の監査が行なわれ、証拠書類等を精査した後、両補佐人から「適正である」と認められた。

国際政経懇話会

グローバル・フォーラム等3団体共催の「国際政経懇話会」の1月例会が、さる1月24日開催された。

木村崇之前EU代表部大使を講師に迎え、拡大と深化を続けるEU統合(とくに外交、金融、財政政策面での統合)の実態、およびその日欧関係にとっての意味合いにつき、語っていただいた。

フォーラム活動日誌(12-2月)

- 12月11日第148回国際政経懇話会(丹波實前駐ロシア大使他19名)
- 12月24日第9回補佐人会(2頁)
- 1月16日「日本アセアン対話/日本とアセアン:アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」開幕夕食会(大河原良雄代表世話人主催)
- 1月17日同上「日本アセアン対話」本会議I~IV・講演昼食会(Kusuma SNIITWONGSE タイ安全保障国際問題研究所評議会議長他126名)
- 1月17日同上「日本アセアン対話」閉幕夕食会(伊藤憲一事務局長主催)
- 1月23日来日した楊慶安ニューヨーク州立大学名誉教授と懇談(伊藤世話人事務局長)
- 1月24日第149回国際政経懇話会(木村崇之前EU代表部大使他19名)
- 1月29日第13回世話人会(2頁)
- 1月31日Vibhav Kant Upadhyayインドセンター代表と懇談(鳩山由紀夫世話人、伊藤世話人事務局長)
- 2月14日来日したGordon Flake MCPA所長と懇談(伊藤世話人事務局長)
- 2月18日第150回国際政経懇話会(竹内夫外務事務次官他24名)
- 2月28米倉誠一郎一橋大学教授、鈴木寛参議院議員と懇談(伊藤世話人事務局長他4名)